



2017年5月8日

2017年12月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)

会社名 サントリーホールディングス株式会社 URL <http://www.suntory.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)新浪 剛史
 問合せ先責任者 (役職名)広報部長 (氏名)丹羽 徹 広報部 TEL (03)5579-1150
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

1. 2017年12月期第1四半期の連結業績(2017年1月1日～2017年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2017年12月期第1四半期	587,183	△ 1.3	36,454	18.8	31,790	28.7	11,235	△ 3.5
2016年12月期第1四半期	594,871	7.5	30,696	13.4	24,704	10.9	11,638	165.7

(参考) のれん等償却前利益

	営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2017年12月期第1四半期	53,581	11.2	48,917	15.9	25,271	△ 2.6
2016年12月期第1四半期	48,187	10.3	42,194	8.4	25,955	40.5

(注) のれん等償却前利益 = 利益 + M&Aにより発生するのれん、商標権等償却費

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2017年12月期第1四半期	16	41	-	-
2016年12月期第1四半期	17	02	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	
2017年12月期第1四半期	4,214,667	1,125,239	1,125,239	1,125,239	20.2	
2016年12月期	4,374,356	1,156,720	1,156,720	1,156,720	20.0	

(参考) 自己資本 2017年12月期第1四半期 850,063 百万円 2016年12月期 873,792 百万円

2. 2017年12月期の連結業績予想(2017年1月1日～2017年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

通 期	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
	2,690,000	1.5	201,000	1.5	178,000	1.2	71,000	△ 41.6	103	78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(参考)

のれん等償却前利益

267,000	1.0	244,000	0.8	125,000	△ 28.8
---------	-----	---------	-----	---------	--------

※ この四半期財務・業績の概況は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は受けていません。

経営成績

1.当第1四半期連結累計期間の概況

当期(2017年1月1日～2017年3月31日)の世界経済は、一部に弱さが見られたものの、全体として緩やかに回復しました。わが国経済においては、個人消費に持ち直しの動きがみられる等、緩やかな回復基調が続きました。

こうした中、サントリーグループは、〈飲料・食品〉〈酒類〉〈その他〉の各セグメントにおいて国内外で積極的な事業展開を行いました。当期の業績は、売上高5,872億円(前年同期比98.7%)、営業利益365億円(同118.8%)、経常利益318億円(同128.7%)、親会社株主に帰属する四半期純利益112億円(同96.5%)となりました。

のれん等償却費を除いて計算すると、営業利益536億円(前年同期比111.2%)、経常利益489億円(同115.9%)、親会社株主に帰属する四半期純利益253億円(同97.4%)となりました。

〈飲料・食品セグメント〉

サントリー食品インターナショナル(株)は、ブランド強化や新規需要の創造に注力したほか、各社の知見を活かしたコスト革新による収益力強化や、同社グループ全体での品質の向上に取り組みました。また、将来の持続的な成長に向け各エリアにおける事業基盤の強化にも注力しました。

国内事業では、重点ブランドの強化に加え、高付加価値商品への注力を通じ新規需要の創造に取り組み、前年同期を上回る販売数量を達成しました。「サントリー天然水」は、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求し、堅調に推移しました。「BOSS」は、引き続き主力商品に注力。また「プレミアムボス」ブランドから期間限定商品を発売するなど新たな提案を積極的に行い、ブランド全体で前年同期を上回りました。「伊右衛門」は、3月に中味・パッケージをリニューアルし、「上質な急須のお茶」の色・香り・呈味をペットボトルのお茶で実現。積極的なマーケティング活動も奏功し前年同期を大きく上回りました。特定保健用食品は、当社が市場を牽引し確固たる地位を築いています。引き続き「伊右衛門 特茶」「特茶 カフェインゼロ」「サントリー 黒烏龍茶」等に注力し、特定保健用食品合計は前年同期並となりました。自動販売機事業では、法人営業に注力しました。自動販売機専用商品の発売や、カップコーヒーマシン・給茶機などさまざまな機材の提案を通じ、オフィス内の飲料需要の取り込みを図りました。

国際事業では、各エリアにおいて重点ブランドの一層の強化やコスト削減等を実施しました。

欧州では、オレンジーナ「Orangina」オアシス「Oasis」シュウェップス「Schweppes」ルコゼード「Lucozade」ライビーナ「Ribena」等の主力ブランドを中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。フランスでは、小容量商品に注力し、「Orangina」「Oasis」が前年同期を上回りました。英国では、特に「Lucozade Sport」が好調に推移し、「Lucozade」は前年同期を上回り、「Ribena」も堅調に推移しました。スペインでは、業務用市場の減速にとまない、「Schweppes」が前年同期を下回りました。

アジアでは、重点ブランドの強化に加え、各国において営業・流通体制の強化に取り組みました。健康食品事業では、主力市場のタイにおいて「BRAND'S ^{ブランド エッセンス オブ チキン} Essence of Chicken」が好調に推移しました。清涼飲料事業では、ベトナムにおいて、品質の高さを訴求したマーケティング活動を実施しました。

オセアニアでは、エナジードリンク「^{ヴィ}V」^{マキシマス}とスポーツ飲料「Maximus」を中心に積極的なマーケティング活動を行い、販売拡大に取り組みました。

米州では、ノースカロライナ州でペプシコブランドのさらなる販売強化に取り組み、伸長している非炭酸カテゴリーにも注力しました。

これらの結果、飲料・食品セグメントの売上高は、3,089億円(前年同期比99.9%)、営業利益203億円(同122.5%)となりました。

〈酒類セグメント〉

ビームサントリー社は、為替や事業売却などの影響を除いた既存事業ベースの売上高が前年同期比一桁台前半増となりました。なかでも「ジムビーム」「メーカーズマーク」やプレミアムバーボンが伸長しました。北米・中南米地域では、米国の売上が前年同期比一桁台半ばの伸長となり同地域の好調な業績を牽引しました。その他地域(北米・中南米・日本以外の地域)も、ロシア、スペイン、東南アジアなどの売上が前年同期比二桁増となるなど好調に推移しました。

日本では、サントリースピリッツ(株)が前年同期比100%の売上となりました。ウイスキーカテゴリーでは、戦略ブランドである「知多」「トリス(クラシック)」が好調に推移しました。「ジムビーム」は“ビームハイボール”を中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。また同社は、世界的な酒類コンペティションにおいて、業界で著しい貢献を果たしたメーカーに与えられる「Distiller of the Year」を受賞、「響21年」もカテゴリー最高賞を受賞しました。12年連続で伸長を続ける同社RTDは、主力ブランドの「-196℃ ストロングゼロ」「ほろよい」に加えハイボール缶も前年同期を大きく上回るなど、前年同期比111%と当期も好調に推移しました。

サントリービール(株)は、総市場^{※1}が前年同期並と推定される中、1,419万ケース^{※2}(前年同期比98%)となりました。「ザ・プレミアム・モルツ」は、5年ぶりに中味・パッケージを大幅リニューアル、家庭用・業務用双方で“プレミアムフライデー”などを活用し、飲用体験の創出を積極的に図りました。お客様からは“溢れだす華やかな香り”と“深いコク”にご好評いただき、3月の販売数量は前年同期比約3割増、1-3月累計では同107%と、プレミアムビール市場の活性化に貢献しました。「金麦」ブランドは、新TV-CMの投入や消費者キャンペーンの実施などにより、前年同期を上回りました。「オールフリー」は、積極的なマーケティング活動により、ユーザーの拡大に取り組みました。

※1 ノンアルコールビールテイスト飲料を含む

※2 大瓶換算(1ケース=633ml×20本)

サントリーワインインターナショナル(株)は、為替の影響を受け、前年同期比98%の売上となりました。日本国内においては、“酸化防止剤無添加”ブランドの販売数量が前年同期比114%と伸長しました。輸入ワインは新商品「ダークホース」「サンタ プレミアム」を投入した中高価格帯商品が好調に推移しました。

これらの結果、酒類セグメントの売上高は、2,172億円(前年同期比99.8%)、営業利益162億円(同106.3%)となりました。

〈その他セグメント〉

サントリーウエルネス(株)は「セサミン」シリーズ等が好調で前年同期比109%の売上となりました。ハーゲンダッツ ジャパン(株)はミニカップの主力商品「バニラ」や新商品が好調に推移し、前年同期比119%の売上となりました。なお、サントリー(中国)ホールディングス有限公司が昨年3月に青島啤酒股份有限公司との合併契約を解消したことなどから、その他セグメントの売上高は、611億円(前年同期比89.7%)、営業利益94億円(同122.7%)となりました。

なお、国内売上高は3,753億円(前年同期比99.4%)、海外売上高は2,118億円(同97.5%)となりました。海外売上高は、為替の影響を除くと前年同期比100.3%となります。

売上の海外比率は36.1%、のれん等償却前営業利益の海外比率は53.0%となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

熊本地震の復興支援活動は、4億円の規模で、「熊本地域における地下水の持続可能性に貢献する活動」「文化・芸術・スポーツを通じた心と体の支援活動」を中心に実施しています。また、東日本大震災の復興支援活動は累計108億円の規模で継続して実施しています。

環境活動では、「サントリー 天然水の森」約9,000ha で水源涵養活動を展開しています。子どもたちに水の大切さを伝える次世代環境教育「水育(みずいく)」は、国内での活動に加え、ベトナムでも実施しています。また、ペットボトル開発における当社独自の「2R+B」戦略^{※3}のもと、容器包装の軽量化や、国内飲料業界で初めて構築したボトル to ボトルのメカニカルリサイクルシステム^{※4}を通じたりサイクル活動を継続しています。

※3 樹脂使用量の削減と再生素材の使用により徹底した資源の有効利用を図りつつ、可能な範囲で石油由来原料を再生可能原料で代替していく考え方(Reduce・Recycle+Bio)です。

※4 メカニカルリサイクルとは、マテリアルリサイクル(使用済みの製品を粉砕・洗浄などの処理をして、新たな製品の原料とすること)で得られた再生樹脂をさらに高温、減圧下で一定時間の処理を行い、再生材中の不純物を除去する方法。当社は2011年の導入後、ペットボトルをリサイクルして新たなペットボトルに再生している。

2.通期の見通し

2017年12月期の売上高は、2兆6,900億円(前年同期比101.5%)、営業利益2,010億円(同101.5%)、経常利益1,780億円(同101.2%)、親会社株主に帰属する当期純利益710億円(同58.4%)を予定しています。

のれん等償却前利益は、営業利益2,670億円(前年同期比101.0%)、経常利益2,440億円(同100.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益1,250億円(同71.2%)となります。

(2017年2月14日発表の業績予想から変更はありません。)

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2016年12月31日現在)	当第1四半期連結会計期間 (2017年3月31日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(資 産 の 部)			
I 流動資産	1,267,103	1,182,310	△84,792
現金及び預金	353,157	303,583	△49,573
受取手形及び売掛金	368,858	320,197	△48,660
たな卸資産	403,393	417,171	13,778
その他の	143,058	142,606	△451
貸倒引当金	△1,363	△1,248	115
II 固定資産	3,106,737	3,031,869	△74,868
1.有形固定資産	640,821	636,299	△4,521
建物及び構築物	183,282	183,167	△114
機械装置及び運搬具	236,052	239,410	3,358
工具、器具及び備品	58,389	57,233	△1,155
土地	100,444	99,852	△592
その他	62,652	56,635	△6,016
2.無形固定資産	2,274,426	2,205,072	△69,354
のれん	1,012,334	979,234	△33,099
商標権	1,180,264	1,146,101	△34,162
その他	81,827	79,735	△2,092
3.投資その他の資産	191,490	190,497	△992
投資有価証券	116,068	118,551	2,482
その他	76,635	73,141	△3,494
貸倒引当金	△1,214	△1,195	19
III 繰延資産	515	487	△27
資 産 合 計	4,374,356	4,214,667	△159,688

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2016年12月31日現在)	当第1四半期連結会計期間 (2017年3月31日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(負 債 の 部)			
I 流動負債	1,002,217	944,470	△57,746
支払手形及び買掛金	133,170	136,935	3,765
電子記録債務	105,953	98,999	△6,954
短期借入金	193,179	215,097	21,917
1年内償還予定の社債	114,523	113,200	△1,322
未払酒税	51,434	31,980	△19,453
未払消費税等	20,394	15,587	△4,806
未払法人税等	24,119	15,118	△9,000
未払金	150,922	130,126	△20,796
未払費用	87,590	75,582	△12,008
賞与引当金	27,482	29,419	1,937
その他	93,447	82,422	△11,024
II 固定負債	2,215,419	2,144,957	△70,461
社債	327,935	321,030	△6,905
長期借入金	1,308,189	1,269,831	△38,358
繰延税金負債	429,873	418,975	△10,898
役員退職慰労引当金	1,090	1,133	43
退職給付に係る負債	35,341	34,690	△651
その他	112,987	99,295	△13,691
負債合計	3,217,636	3,089,428	△128,208
(純 資 産 の 部)			
I 株主資本	895,287	897,739	2,452
資本金	70,000	70,000	—
資本剰余金	133,198	133,316	118
利益剰余金	693,688	696,021	2,333
自己株式	△1,598	△1,598	—
II その他の包括利益累計額	△21,495	△47,675	△26,180
その他有価証券評価差額金	25,491	26,709	1,217
繰延ヘッジ損益	△2,257	△1,927	329
為替換算調整勘定	△29,763	△57,959	△28,195
退職給付に係る調整累計額	△14,966	△14,498	467
III 非支配株主持分	282,927	275,175	△7,751
純資産合計	1,156,720	1,125,239	△31,480
負債純資産合計	4,374,356	4,214,667	△159,688

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前第1四半期連結累計期間 (自 2016年 1月 1日 至 2016年 3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2017年 1月 1日 至 2017年 3月31日)	増 減
	金 額	金 額	金 額
I 売 上 高	594,871	587,183	△7,687
II 売 上 原 価	289,858	275,670	△14,188
売 上 総 利 益	305,012	311,513	6,500
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	274,315	275,058	742
営 業 利 益	30,696	36,454	5,757
IV 営 業 外 収 益	2,618	2,606	△12
受 取 利 息	285	282	△2
受 取 配 当 金	104	142	38
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	1,178	1,520	342
雑 収 入	1,049	659	△390
V 営 業 外 費 用	8,611	7,270	△1,340
支 払 利 息	7,139	6,478	△660
雑 支 出	1,471	791	△680
経 常 利 益	24,704	31,790	7,086
VI 特 別 利 益	9,252	718	△8,533
投 資 有 価 証 券 売 却 益	444	405	△39
関 係 会 社 株 式 売 却 益	—	149	149
事 業 譲 渡 益	8,778	—	△8,778
そ の 他	29	164	134
VII 特 別 損 失	3,361	2,148	△1,213
固 定 資 産 廃 棄 損	1,036	808	△228
組 織 再 編 関 連 費 用	913	353	△560
震 災 関 連 費 用	—	472	472
そ の 他	1,411	513	△897
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	30,594	30,360	△234
法 人 税 等	14,194	13,538	△655
四 半 期 純 利 益	16,400	16,821	421
非支配株主に帰属する四半期純利益	4,762	5,586	824
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,638	11,235	△402

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「酒類事業」の2つを報告セグメントとしています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品…………… 清涼飲料、健康飲料、加工食品 他
 酒類…………… スピリッツ、ビール類、ワイン 他
 その他…………… 中国事業、健康食品、アイスクリーム、外食、花 他

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 2016年1月1日 至 2016年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	309,170	217,585	68,114	594,871	—	594,871
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,955	1,304	2,588	5,848	△ 5,848	—
計	311,126	218,889	70,703	600,719	△ 5,848	594,871
セグメント利益	16,551	15,239	7,631	39,422	△ 8,725	30,696

当第1四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	308,852	217,248	61,082	587,183	—	587,183
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,631	917	2,414	4,963	△ 4,963	—
計	310,484	218,165	63,496	592,146	△ 4,963	587,183
セグメント利益	20,280	16,206	9,365	45,852	△ 9,397	36,454

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。

それぞれの金額は次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間

セグメント利益の調整額	△ 8,725 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 8,742 百万円
セグメント間取引消去	16 百万円

当第1四半期連結累計期間

セグメント利益の調整額	△ 9,397 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 9,416 百万円
セグメント間取引消去	18 百万円

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。